

第200回「防災まちづくり談義の会」レポート  
(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/> )

令和6年11月

日時:2024年11月15日(金) 14:45-17:00

会場:横浜市青少年育成センター 第2研修室

◆ 主催:防災塾・だるま 総括運営:鷺山 司会:山田(美) 記録:山田(美)田中

◆ 談義の会参加者: 21名(会場17名、ZOOM:4名) (敬称略)

話題: 談義の会200回を基盤とした防災の未来への提案

講師 会員有志:山田(美) 池田 磯野 藤崎 田中(晃) 荏本 伊藤 加藤 鷺山 9名

鷺山塾長 挨拶:

「防災塾・だるま」は、2006年の創設以来、今年で200回に達する防災セミナー「防災まちづくり談義の会」を開催し、そのアーカイブを蓄積、公開してきた。昨年は、関東大震災100年への総括的取り組みもでき、また、来年は阪神・淡路大震災30年となる。蓄積した教訓とこの社会の変化を見据え、未来に向けて本会は何を提言すべきかを会員へアンケート調査をしました。第1部でその結果報告 第2部では会員有志による「今までの活動や研究を踏まえた今後の対策や抱負」を発表して頂き論議ができればと願います。

【第1部】 会員全員へのアンケート結果報告 担当:山田 美智子

テーマ: 防災まちづくり談義の会第200回を基盤とした防災の未来への提案

会員の皆さまが感じている災害への不安や対処の方法、日ごろの防災活動や「防災塾・だるま」の活動で印象に残った内容、また役に立ったことをお聞きし、未来の防災活動についても回答いただきました。

【設問】回収率 26パーセント 100人中 26名

1. お住まいの 地域の特徴や地形・災害リスクについて (複数可)
2. 現在広く感じている災害発生に対する不安は何ですか (複数可) : 自然災害
3. 現在広く感じている災害発生に対する不安は何ですか (複数可) : 社会的な不安
4. 家庭や地域・組織で何に取り組んでいますか。 (複数可)
5. 「防災塾・だるま」の活動や学んだことで役に立ったことはなんですか (複数回答)
6. 「防災まちづくり談義の会」や「エクステンション講座」(実践的防災まちづくりコーディネーター講座その他の活動で、今までで印象に残った活動・講座の種類や内容 (HP参照100字以内)
7. 「防災塾・だるま」でもっと力を入れて欲しいこと、やりたいことは (自由記述: 200字以内)
8. 「防災塾・だるま」として社会(行政、地域社会、家庭、個人等)に提案したいこと、実践報告のテーマ (50字以内: 自由記述)
9. 上記7の具体的内容 (200字以内: 自由記述)
10. 第200回談義の会(11月15日実施)における提案等の希望

【設問に関する回答を多い順に第3位まで表し 分析コメントつけて下記を例に10設問まで発表しました。】

設問1に対する回答を多い順に第3位まで示して下さい

2 & 3の災害発生に対する不安は「災害の種類」と「社会的な不安」の両方について聞きました。

設問2 ①台風と線状降水帯 ②首都直下地震 ③洪水・土砂災害

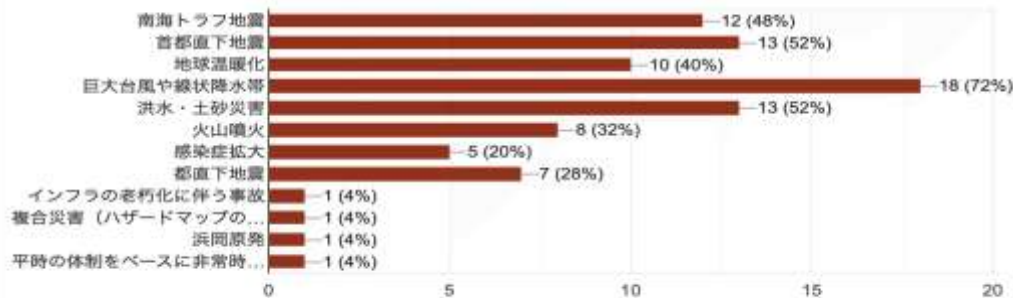
設問3 ①住民の防災知識・意識の欠如②要援護者支援 ③コミュニティの希薄

少数意見の原発やインフラの老朽化も注目すべき不安です。

市民の防災意識の向上に「防災塾・だるま」としても啓蒙に尽力していきたいです。

## 2. 現在広く感じている災害発生に対する不安は何ですか（複数可）

25件の回答



4. 防災のために取り組んでいることは、①講演会・座学参加 ②耐震・家具固定 ③備蓄と自助をまずしっかり実施して共助も頑張りたいという傾向が表れています。防災訓練参加や行政・社協との連携や講演会の企画担当も実施していて防災活動をしている会員ならではの取り組みです。

5. 防災塾・だるまで学んで役立ったこと。①談義の会の講座 ②講義後の意見交換 ③神奈川大学との協働という順でしたが大学との協働はだるまの特徴としてよい継続方法を考えていきたい。被災地訪問も増やしたいところです。

## 8. 「防災塾・だるま」として社会（行政、地域社会、家庭、個人等）に提案したいこと、実践報告のテーマ（50字以内：自由記述）

「自然災害から生き残るために何をしたら良いか」を真剣に追及していくことが必要で、専門性ある学びを一般市民に分かりやすく伝えていく。具体的な手法や実践を駆使することが大事。

- ・ 自然災害から自分、近隣の人達が生き残るために必要な自助、共助を確実にするための知識、技法の習得。
- ・ 各世代間の交流
- ・ 避難生活のQOL向上
- ・ ずばりの地震予知でなくても、それなりの予知研究
- ・ 防災・減災の市民活動の重要性
- ・ 人災（防ぐことの出来る災害）
- ・ 災害リスクを知るまち歩きとマップ作り 各種タイムラインの作成

## 9. 【具体策】

- ・ 考えて定例会等で報告出来ればと思います。
- ・ 阪神淡路大震災からの災害教訓、防災対策への叡智を学び、蓄積してきた本会は、今これらを総括し、未来の日本の防災創生につなげる提案につなげたい。今後「防災庁」の創設が現実化するなら、その基本的指針に本会の学びが反映できるように提案したい。
- ・ 現役世代が加わるような仕組みづくりが必要
- ・ 町内会・自治会等地域に積極的に出向き、講座や訓練等を実施
- ・ 能登半島地震から見えてきた課題を、どう解決するかを検討と提案

- ・ 東日本大震災被災地の復興状況の視察
- ・ 身の回りのリスクに敏感になる。危険予知
- ・ だるまとしてモデル地域を決めてサポートし成果を広げる
- ・ 地球温暖化によってどのような気象現象が起きているかを8月末～9月の台風10号とモンスーンジャイアを例に説明したい
- ・ いざ災害が起こった時に地域との連携協力ができるか、体制が出来ているか
- ・ 教育と防災の関係を深める。具体的には、防災授業のパッケージがあると良いかと思います。
- ・ いのちの医療。日本語の精査。健康福祉。複合災害対策
- ・ 先日、横浜市の小黒地区の公園にて防災のイベントが実施された。担架やAEDの体験や子供向けスタンプラリー、消防服の体験など地域の大人よりも子供達に焦点を当てたイベントだった。回覧板で知らされたイベントだったため、参加者が少ないかと予想したが、親子連れがかなり参加しており、驚いた。若者や20～30代にも興味を持ってもらうにはどうしたら良いのか継続して考えたい。
- ・ 最新情報交換、未来の姿と発信

第2部 池田さん 磯野さん 藤崎さん 田中晃さん 荏本先生 伊藤さん 加藤さん 鷺山塾長  
による活動と防災に未来に向けての提案 発表

## 談義の会200回を基盤とした防災の未来への提案（要旨一覧）



池田邦昭さん



磯野一得さん

### 池田さん：テーマ「200回を迎えた談義の会を発足時から振り返る」

2005年神奈川県主催講座の講師として、荏本先生と出会う。講座終了後先生の支援で「防災塾・だるま」が誕生。「防災まちづくり談義の会」を会として主催し、様々な講師を招いて多彩な内容で実施してきた。川崎市健康安全研究所の岡部信彦先生や、横浜市健康福祉局衛生研究所の大久保一郎先生を招いての講演が印象に残っている。これからも色々な災害が発生するが防災は感染症対策も含めて進めるべきだと思う。

### 磯野さん：テーマ「産官学と地域住民との共創」

【生損保事業・横浜バイオ科学塾会員】地域が抱える、福祉充実と人名救助が複合災害への対応であり。その内容は住民が選択する。防災塾・だるまは達磨大師の「無と空」の思想を顕現する組織。実務の内容を産官学と住民で共創する。



藤崎修一郎さん・田中晃さん



荻本先生



伊藤郁夫さん・鷲山塾長

**藤崎さん・田中晃さん テーマ:「介護におけるBCPと福祉・防災の融合」【福祉関係業務担当者】**

介護におけるBCP作成は正確な情報集約と判断できる体制を構築、自然災害対策を事前に準備しておく。設備・機器などの固定化。インフラが停止した場合のバックアップ、どう行動するか人名安全のルール策定など。福祉避難所の立ち上げマニュアルを作成。地域生活における福祉・防災の融合に向けてつながりを強めるサロンの場所が必要。

**荻本先生:テーマ:「耐災害性について」【神奈川大学名誉教授・防災塾・だるま名誉塾長】専門は地盤工学**

現在の日本社会は経済的、技術的、社会的にも大きく変容し、災害に対する認識も変化している。災害現象に関するより深い理解。災害対策費用の見える化などを進め、従来の知識では想定できない災害、その変化を前提に「耐災害性」について考えていく必要がある。

**伊藤邦夫さん テーマ:「能登半島被災地 現状からの考察」【ボーイスカウト日本連盟災害タスクチーム・港北災害ボランティア連絡会】**

能登半島地震後、珠洲市に13回支援活動参加。被災者に寄り添い、がれき撤去、家具等の片付け作業をおこなってきた。人口減・若者減で今後も災害ボランティアの長期支援が必要。一人暮らしの高齢者のケアが引き続き必要。横浜暮らしの中、自然災害時の対応見直しを提案していきます。

**加藤愛梨さん テーマ:「能登半島被災地からの報告」【リスクコミュニケーター・2024年5月(株) Mutubi 設立】**

令和6年能登半島地震では1月4日から被災地に入り行政の支援が届かない高齢者施設や避難所、生業などの支援活動を続けてきた。災害報道や教訓蓄積の課題として、ニュースバリューの有無によって報道されない。上手くいった例には光が当たらない。報道されたとしても、報道は次第に減り、他のニュースに埋もれていくなどの課題がある。また貴重な教訓が未来の災害に向けて共有・継承されない現状がある。被災地に寄り添い自らクラウドファンディングを活用しながら支援と取材を続け、Webメディア「MuTube」で番組を配信している。(ZOOMオンラインで発表)

**鷲山龍太郎塾長** テーマ:「談義の会200回を総括する「防災曼荼羅」と創設される「防災庁」への提案【防災塾・だるま塾長 防災NET代表】 談義の会200回には、これまでの災害の教訓が凝集されている。これを総括して実現したい防災の課題と災害に強い社会への道筋を一枚の「防災曼荼羅」にした。防災の基本(を)しる・こ→し(自然理解)る(ルール)こ(行動計画)⇒「自然との共生」「人との共生」 地震防災の基本(地震が起きても)あ・し・た・に・じ→あ(安全スペース し(初期消火)た(助け合い)に(逃げる)じ(自宅避難)⇔政府の防災庁 設立に期待し提案していきたい。

次回:201回談義の会 日時:12月19日(木)15時 会場:横浜市青少年育成センター地下2f 第1研修室「防災アラルト」発表: 早川・樋口・杉内・松島・中根・伊藤・鈴木・鷲山塾長